3年道徳通信　第6号

第6回『知らないよ』

　真緒は中学校最後の思い出のために文化祭の実行委員に立候補しました。劇に乗り気ではない小道具グループが「真緒は，推薦入試で有利になるからやっている」と言います。「僕」は真緒の本当の気持ちを知っていますが、自分の保身のためうわさを否定することができませんでした。それ以降，真緒は「僕」に口をきいてくれません。「僕」は，自分がちっぽけな存在に思えてしかたがありませんでした。

　文化祭の実行委員とクラスメートとの間に起こった行き違いの物語を通して，自分で考えて誠実に行動することの大切さについて考えます。

みんなの意見

「僕」がどうしても真緒に伝えたいことは何でしょう？

- ごめん。何も言えなくてごめんな。
- 次に何か言われたときは必ず言い返すから許してほしい。
- 「真緒が一生懸命、頑張っているのは知っているよ。気にしなくていいよ。」「あのときは本当のことを知っていたのに言えなくてごめん」
- 今、謝っても遅いと思うけど、本当にごめん。
- 僕は真緒の一生懸命さを知っているのに、そんな僕が裏切るようなことをしてごめん。

「真緒の一生懸命さは変わらなかった」のはなぜだと思いますか？今日の感想。

- 真緒の文化祭をやりきりたい、最高の物にしたいという気持ちはとても強かったから。
- 自分の気持ちよりも最高の文化祭にしたいという気持ちのほうが強かったから。
- これから体育祭や文化祭があってリーダーが決まっていくけれど、そのリーダーに協力しようと思った。
- そのとき適当に過ぎたらほっとするかもしれないけれど、あとで人間関係で取り返しのつかないことになったりもする。だから自分の意見をそのときはっきり言いたい。
- 人に合わせていったり、行動したりすることで誰かを傷つけたりしてしまうことがあるから自分でしっかり考えて行動することは大切だと思いました。
- 実際にこんな場面で言えるかってなったら、自信はない。でも、もっとちゃんと言えるようになりたいと思いました。

自分で考え、誠実に行動することは、どうして大切なのだろう。